

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296300029		
法人名	医療法人社団 緑風会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 たんより かわせみユニット		
所在地	静岡県周智郡森町草ヶ谷212-1		
自己評価作成日	平成28年8月20日	評価結果市町村受理日	平成28年10月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2296300029-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2296300029-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年9月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

できるだけ家庭的な雰囲気を忘れず、入居者にとって第二の我が家と思っていただけるよう、日常生活を支援してしています。入居者一人一人の出来ることを確認し、それぞれの方が役割を担うことで、存在している意義を感じることができると、穏やかな生活の確保に努めています。季節の行事や外出なども積極的に行ってまいります。また家族の方との時間も多く持つようにし、信頼関係も構築しています。地域の方々との交流を通じて、入居者にとってより『普通の生活』に近づくようなじみとの関係性を築き、連携を密にしています。ホーム内の職員の状態や信頼関係を良好なものにし、より良いケアにつなげていけるようにします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所名の「たんより」は文献にも載っておらず、森町の人のみ知る方言で「のんびり、ゆったり」という意味があります。その言葉通り、穏やかに過ごしてもらえようとする雰囲気を大事にし、洗い物や洗濯たみが得意な女性利用者には積極的にこなしてもらおう等「在宅の頃と同じように」との想いを実現させており、隣近所の相互扶助的なやりとりが職員だけでなく、利用者間にもあることを視認しました。昨年度は職員の入れ替わりが続いていましたが、本年度になり新たなホーム長が着任し、ユニットリーダーの存在とその役割を明確にしていく中で、安定したケアサービスを提供できつつあり、今後の取組みが頼もしくもあります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念としては、やさしさ、安心・安寧を掲げ、その人らしく穏やかで安心できる生活の場が提供できるよう、日々意識しています。たんより15か条と運営目標を、個々の職員の目標と照らし合わせながら、面談にて確認しています。	管理者が主任やユニットリーダーへ啓発するトップダウンのほか、面談ではフラットに個々の目標作成に取り組んだ結果、光明を得て業務への意欲が高まった職員もいます。成果に結んだことで来期はさらに目標作成に力を入れることになっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的に地域の方々がホームに寄って下さり、畑や花の手入れしたり、農作物の差し入れをして下さっています。たんよりでのイベントや防災訓練には、地域代表に参加していただいています。また、たんより通信を月に1回発行し、町内に回覧配布を依頼しています。	年間を通して小・中学生の社会科研究、職業体験の来訪がみられ、中でも小学生女子のネイルアートには利用者が歓びの余り、涙を流したというエピソードもあります。民生委員OBが草取りしてくれたり、アクティビティのボランティアも月3回程度訪れ、地域住民との交流が日々あります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が研修で学んだことや日々実践している状況、またその資料を、町内会長、副会長、民生委員の方々へ配布したり、運営推進会議にて話し合いをしてお伝えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在のたんよりの状況や取り組んでいること、課題などを報告し、ご意見をいただいています。また、地域での行事や催し物などの情報をいただき、特に祭典には積極的に参加させていただいています。	行政、地域、家族の参加が得られ、隔月開催できています。事務的な報告に留まらず、情報交換に話が弾み、1時間では足りないほど盛況です。町内会長の尽力を以て、小國神社の菖蒲園、ききょう寺へと平日ならば無料見学できるようになったことも有り難い副産物です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場の窓口へは積極的に訪問し、直接相談や協力を依頼しています。包括支援センター担当者とは連絡を取り合っています。町の介護相談員には、ご利用者との会話を通じて協力していただいています。	森町とのやりとりはFAXが主でしたが、「顔を合わせるのが大事」として本年度からは窓口に向かっています。年4回の多職種カンファレンスでは行政職員も加わっての情報共有も進み、また介護相談員の支援もあり森町グループホーム協議会が来月発足する予定となっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を玄関に掲げ、身体拘束ゼロということを宣言し、日々ケアに取り組んでいます。実際に拘束をすることなく、日々ケアができています。	法人内に身体拘束委員会があり、研修会も定められて知識面では過不足ありませんが、安全管理上、玄関のタッチセンサーなどやむを得ず施錠する箇所はあるため、管理者から常々「あたりまえだと思わないでほしい」と職員に意識の継続を求めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは何かということを常に考え、日々話し合うようにしています。現場だけではなく、ニュースや他施設での状況なども問題として考え、検討し、日常のケアを考える機会としています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての勉強会を実施し、職員同士で情報を共有していくようにします。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約においては、緊急時を除いて、時間をとっていただくようにし、丁寧に説明することを心がけています。特に入所時は不安や疑問も多いと思われるため、利用者様やご家族の立場に立って、ご理解いただける説明を行うよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはご家族に必ず状態報告を行い、それに対するご意見を聞きケアにつなげています。またホームのイベント等についてもご意見を参考にしています。必要時、お電話でも説明や意見を伺う機会として行っています。	担当職員の交替には手紙をしたため、また普段の関わりにも十二分に配慮し、特に面会では挨拶に留まらず、利用者の暮らしぶりや健康状態と些細なことでも直接伝えるようにしています。その結果、家族が往診に立ち会ってくれるようになった等の変化が生まれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で必要時話し合いやカンファレンスなどを実施し、問題点・改善点等を解決するように努めています。また、年に一度、代表者と面接を行い、業務に対する意向をお互いに確認する場としています。	個性豊かな職員が自慢の喉やダンスの披露、料理レクに腕を振るったりと、一人ひとりの得意技を日々活かす一方で、「職員意見を採用して浴室扉の安全向上に成された」といったこともあります。「意見が実現していく」このような例から職員のモチベーションもアップしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が目標を持ち、達成できるよう、業務において取り組み日々のケアにつなげ、やりがいにつなげられるようにしています。また外部研修は業務の一環として参加しています。退職金制度や永年勤続表彰制度をH27年度より実施しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や勉強会については積極的に参加し、早速日々のケアに活用するようにしています。職員の業務経験もそれぞれ違うので、一人一人の職員に合ったトレーニングを行い、それぞれが自信をもって業務に臨めるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での他部署との交流や連携は、以前に比べ確立していますので、引き続き継続させていきます。また町内の他施設とは、勉強会という名目で交流会が定期的であり、情報交換をしながらサービス提供の参考にさせていただいています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問に至るまでや、事前訪問当日、また入居までに、今までの経緯や現状、心配や不安なことを把握し、入居者を理解するように努め、より良いケアが提供できるよう準備しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回申し込み時や事前訪問時に、疑問点や不安、ご希望などがあれば情報収集し、入居までに準備し対応していただけるようにします。契約においても同様に行うようにし、ご家族の気持ちに配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やケアマネージャー、また病院やデイ、ショートステイなどと常に連携をとり、その時にどうしたら一番ベストな方法かを話し合い、サービス決定に協力するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯ものを干したり畳んだり、食事の準備・後片付け、畑の手入れや収穫など、入居者ができることは実施していただいています。また会話等を通じて、職員とコミュニケーションをとり、良好な関係を構築しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が入居者と入居以前からの関係が保てるよう、面会や外出泊はいつでも自由にできるようにしています。またイベントやアクティビティなどにも気軽に参加していただける配慮をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の思い出や昔話に傾聴しています。話の中になじみの人や場所などが出てくることも多いので、外出できる場所であれば外出したり、ご家族の協力を得てなじみの人に会えるように連絡するなど、支援しています。	友人や職場の同僚だった人が遊びに訪れています。例えば独居となり遠く離れた家族と住むことになった人は、愛郷心から住み慣れた此処へとつながり、「森町に住んでいる」ことでの安堵が感じられます。また、眠れない利用者には夜半でも職員と茶話会が開かれることもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う、合わないが生じてしまうのは仕方がないので、関係性を把握し、適宜席の配置を考慮しています。イベントやアクティビティ、趣味の場においても、並び方や順番等、配慮し対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も他施設に訪問し、ご本人とお会いする機会を持つようになっています。またご家族へも連絡したりするなど、状況を伺うようになっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の情報などから、入居者の希望や意向を把握し対応しています。また入居してからも、ご本人やご家族から情報収集を継続し、相談しながら個別的なケアを行うようになっています。	夕方になると帰宅への想いが募る女性利用者については、「主婦であったことから夕食の心配をしているのでは」との見立てで食器洗いを手伝ってもらったところ、本人が大変満足してその夜から安眠が取り戻せたという例をはじめ、職員の観察と話し合いを以て、本件に取組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み時や事前訪問、契約時などに生活歴や今までの経過を伺うようになっています。また不足の情報があればケアマネジャーへ確認し、実際にサービス提供者のところへ伺い話を聞くようになっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況を記録し、職員一人一人が情報収集し、共有してケアにつなげています。日ごろから医師や看護師、病院との連携を図り、もし体調変化等あれば速やかに対応していただけるようになっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のご本人の訴えやご家族の意見や希望を伺い、職員・ケアマネと検討し、介護計画を作成しています。常に現在の状況を情報として取り入れ、反映させています。	午後のカンファレンスではプランに沿った合議を以て立ち返る姿勢が身につく、意識の高まりがみられます。介護支援専門員の勤務は週1日ですが、担当職員によるチェック方式のモニタリングも功奏し、ユニットを超えて進言があることも管理者としては頼もしく感じています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態を記録としてカルテに記入し、残すようになっている。状態が変化したりケアの変更がある場合は、カンファレンスを行い、情報を共有しプラン見直しなどに反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じて、外出対応するなど、臨機応変に対応しています。ご家族にも協力をお願いしたり、時には他部署にも連携を図り、対応するなどしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方々や地域の役員、またボランティアの方が気軽にきて下さるよう、信頼関係を築いています。イベントやアクティビティを行ってもらうなど、入居者の方が普段できない活動を楽しんでいただけるよう、願っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度主治医の往診がありますが、それ以外でも静岡県在宅医療ネットワークシステム等を利用し、適宜状態報告を行い、必要であれば受診するなどしています。	専門医には家族が受診支援しています。協力医である森町病院の訪問診療は看護師である管理者との連携もスムーズで、院支援室の在宅医療ネットワークシステムの24時間体制と、院連携室、森町訪問看護ステーション、薬剤師とのチームケアも万全で、緊急時も安心です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	たんより看護師が日々観察対応しています。また週に一度訪問看護も利用しています。看護相談助言、また看護処置等、入居者の病状の把握や状態変化に対して、連携しながら看護ケアを行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院等になってしまった場合には、入居中の生活状況を速やかに伝達し、入院生活に際し活用を依頼します。面会や面談に積極的に参加し、できるだけ早期に退院できるよう病院の医師・看護師・支援員らと情報交換しながら対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、病状が進行した場合やターミナルの時期になった時のあり方をお話しする機会を持つようにしています。また初回往診時に主治医とも確認し、今後の療養上の方針として共有し対応しています。訪問看護とも連携を図っています。	医療行為が常に必要となったときを重度化のめやすとし、救急搬送の受入のある森町病院の協力体制の下、でき得る限り此処での生活を目標としています。利用者の家族からも「最期まで～」という声が聞かれています。難しい場合は法人内の老人保健施設への移設も可能です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から、急変時や事故発生時の対応について意識するよう、勉強会や研修を行う機会を持っています。実際に救急対応した場合は、状況を実例として訓練するようにしています。医師や訪問看護師にも常時指導していただき、実践力の向上に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い、職員が避難する方法を身につける機会を持っています。また、地域の役員や近所の方にも依頼し、日頃から実際の災害発生を意識し、協力していただける体制をとっています。	年2回の総合訓練は近隣にも呼びかけ、またほぼ毎月歩行訓練を兼ねて避難経路を辿っています。職員にも抜き打ちのため、緊張感をもってこなしています。近く池の存在は水害リスクが考えられる為、緊急時の対応を検討中です。	水害リスクについては近隣住民と協議の場がもてるよう、何らかのアプローチが進むことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症があっても入居者の人格を尊重し、人生の先輩として対応するよう、職員一人一人が意識してケアをするようにしています。プライバシーが保てるよう、注意を払い対応することを心掛けています。	ニコニコと妻の話を聞く様子から、夫婦一緒に生活できていることで穏やかに暮らせていることが伝わる利用者も見かけました。夫の居室前に夫妻それぞれの名前を掲げ、食事の席も向かい合わせにしている、「いつまでも夫婦仲良く生活できるように」と、尊厳を大切にしている好例です。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者お一人お一人の思いを尊重し、気持ちを出しやすい状況を作っています。また、職員が決めるのではなく、入居者本人が自己決定できるような生活支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日、また一週間の予定はあるものの、入居者の状態や状況により予定を変更して対応しています。希望があれば、レクリエーションやアクティビティ、外出など、臨機応変に対応できるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に職員が一人一人の好みや趣向を把握し、髪形や化粧、服装など本人の希望に沿って支援しています。年齢や性別に関係なく、おしゃれの気持ちを忘れないように対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや簡単な調理は、やりたい人、意欲のある人にお渡し、職員と一緒に行うようにしています。職員だけで進めちゃうのではなく、常に入居者ができるようなことを検討し、提供しています。	米飯を事業所で炊く以外は業者に依頼していますが、「今からやるよ」などの声が聞かれ、利用者も片づけを役割としておこなっています。畑で採れた野菜で調理レクをおこなったり、おやつにはおはぎやどら焼き作り、また家族との会食も予定されており、食の楽しみも考慮しています。	普段の食事のご飯以外を業者に依頼していることから、仕組みや記録等の検食全般の精度を高めることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や昔からの嗜好、好き嫌いなども考慮しながら、栄養状態、水分摂取量を把握しています。食欲がない場合は食べたいもの、飲みたいものを提供し、摂取できるようなケアを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行い、1人でできない方には介助しています。義歯がある方が多いので、義歯洗浄剤も使用しています。必要時、歯科受診も検討し対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居後の排泄パターンや回数を記録し、把握に努めています。できるだけトイレでの排泄ができるよう、訴えを傾聴し、介助しています。訴えがない方でもトイレ誘導を行い、対応しています。	「なるべくトイレで」との想いをもって取り組んでいます。中でも98歳で車いすを利用する人のオムツは、本人の尿意を確認しつつトイレ介助を進めるなかで、立位を取る機会を通して下肢筋力が次第につき、リハビリパンツを念の為に使用するという状態にまでなった例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	すぐに便秘薬に頼るのではなく、牛乳やヨーグルト、また青汁などを取り入れ、排泄を促すようにしています。歩行訓練や全身体操を行い、便秘のないよう注意しています。訪問看護師の指導も受けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員側の都合で入浴するのではなく、入居者が入りたいタイミングに合わせて入浴できるように努めています。入浴拒否する方もいますが、無理強いすることのないよう支援しています。	浴室は洗い場が広々としていて介助者も動きやすく、大きな窓が2つ設置されて換気も十分です。タイル張りの足元は、冬場は「冷えないようにお湯や湯気を」と、配慮しています。週2回以上ある入浴には、時には菖蒲湯の季節を取り入れることもあり、またミスト浴の備えもあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者それぞれの生活リズムを把握し、本人のペースで休息や入眠ができるように対応しています。常識にとらわれることなく、その方の休息ができる状況を理解し、受け入れるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤師管理指導が導入されたため、薬剤に関しては薬剤師に確認し、指導を受けています。薬の効果や副作用、用法、用量など理解に努め、内服によって体調がどう変化しているか、観察します。内服は確実に飲めるよう、介助しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理が得意な方、草むしりや畑が得意な方、洗濯物を干したり畳んだり、掃除をするなど、入居者の得意な分野で活躍していただけるようにしています。やりがいを感じ、生きている実感を抱けるよう、役割を担っていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は定期的にレクリエーションとして計画し、実行しています。外出によって季節感が感じられるよう、場所や時間も検討して出かけています。時には家族や地域役員に協力してもらいながら、普段行けないような所へも行けるよう、計画しています。	前職がバスドライバーだった担当者が5人ずつでのドライブを週1回慣行して、繰り返し出向く菖蒲園やききょう寺は花好きには大満足のお出かけとなり、また普段はシルバーカーでもおぼつかない利用者が、スーパーマーケットでは安定して買い物カートを押すというエピソードもあります。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者個々で小口現金(お小遣い)を預かっており、一緒に買い物に行ったり、職員が代わりに購入しています。一緒に行ける方は実際に支払いをします。行けない方にもお金を使ったことを説明し、お金について理解していただけるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、本人が希望時に対応します。実際、直接電話で話をさせていただくと、とても喜ばれます。手紙を書かれた時にはすぐに投函のお手伝いをし、対応するよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員目線で環境を整えるのではなく、入居者の目線で居心地の良い環境となるよう、常に意識するようにしています。自宅のような感覚で生活していただけるよう、時には模様替えや配置換えをし、居心地がよいと感じていただけるように努めています。	壁には塗り絵や習字、短歌の作品やスイカをいしそくに頬張る笑顔の写真が掲示されています。折り紙で作られたモビールや暖簾が風にそよぎ、畳スペースでは乾いた洗濯物をたたんだり、書を嗜む人が小机に正座で向かう姿もあり、ごく稀に昼寝でも使われており、安寧が滲みま	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は入居者同士で過ごす時間が多いのですが、時には居室で独りの時間も持てるように声掛けや誘導をしています。また、ホール、食堂においてもプライバシーが保てる空間ができるよう、椅子の配置やテーブルの置き方を適宜変えて対応しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の自宅から、本人が使い慣れた馴染みのもの、家具や思い出のあるものなどを持参していただき、本人が違和感なく居心地よく生活していただけるよう、配置しています。希望によっては適宜変化させたり本人の好みを尊重するなど、心掛けています。	孫の結婚式の写真を筆筒の上に飾ったり、ベッドにぬいぐるみを3体並べてたり、座布団が敷かれた藤椅子があったりと、その人の趣が伝わる居室ばかりです。ハンガーに洋服が吊られ、たくさん連なった上にはレースの布が掛かる様子からは本人のオシャレへの愛着が感じられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の理解度も差があるため、当たり前の場所なども皆さんが理解していただけるよう、表記をしたり、わかりやすい方言なども取り入れてみたり、工夫して、不安なく安全に生活していただけるよう努めています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2296300029		
法人名	医療法人社団 緑風会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 たんより さざんかユニット		
所在地	静岡県周智郡森町草ヶ谷212-1		
自己評価作成日	平成28年8月20日	評価結果市町村受理日	平成28年10月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2296300029-008&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2296300029-008&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年9月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

できるだけ家庭的な雰囲気を忘れず、入居者にとって第二の我が家と思っていただけるよう、日常生活を支援してしています。入居者一人一人の出来ることを確認し、それぞれの方が役割を担うことで、存在している意義を感じることができると、穏やかな生活の確保に努めています。季節の行事や外出なども積極的に行ってまいります。また家族の方との時間も多く持つようにし、信頼関係も構築しています。地域の方々との交流を通じて、入居者にとってより『普通の生活』に近づくようなじみとの関係性を築き、連携を密にしています。ホーム内の職員の状態や信頼関係を良好なものにし、より良いケアにつなげていけるようにします。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所名の「たんより」は文献にも載っておらず、森町の人のみ知る方言で「のんびり、ゆったり」という意味があります。その言葉通り、穏やかに過ごしてもらえようとする雰囲気を大事にし、洗い物や洗濯たみが得意な女性利用者には積極的にこなしてもらおう等「在宅の頃と同じように」との想いを実現させており、隣近所の相互扶助的なやりとりが職員だけでなく、利用者間にもあることを視認しました。昨年度は職員の入れ替わりが続いていましたが、本年度になり新たなホーム長が着任し、ユニットリーダーの存在とその役割を明確にしていく中で、安定したケアサービスを提供できつつあり、今後の取組みが頼もしくもあります。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念としては、やさしさ、安心・安寧を掲げ、その人らしく穏やかで安心できる生活の場が提供できるよう、日々意識しています。たんより15か条と運営目標を、個々の職員の目標と照らし合わせながら、面談にて確認しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に地域の方々がホームに寄って下さり、畑や花の手入れしたり、農作物の差し入れをして下さっています。たんよりでのイベントや防災訓練には、地域代表に参加していただいています。また、たんより通信を月に1回発行し、町内に回覧配布を依頼しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が研修で学んだことや日々実践している状況、またその資料を、町内会長、副会長、民生委員の方々へ配布したり、運営推進会議にて話し合いをしてお伝えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在のたんよりの状況や取り組んでいること、課題などを報告し、ご意見をいただいています。また、地域での行事や催し物などの情報をいただき、特に祭典には積極的に参加させていただいています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場の窓口へは積極的に訪問し、直接相談や協力を依頼しています。包括支援センター担当者とは連絡を取り合っています。町の介護相談員には、ご利用者との会話を通じて協力していただいています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を玄関に掲げ、身体拘束ゼロということを宣言し、日々ケアに取り組んでいます。実際に拘束をすることなく、日々ケアができています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは何かということを常に考え、日々話し合うようにしています。現場だけではなく、ニュースや他施設での状況なども問題として考え、検討し、日常のケアを考える機会としています。		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての勉強会を実施し、職員同士で情報を共有していくようにします。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約においては、緊急時を除いて、時間をとっていただくようにし、丁寧に説明することを心がけています。特に入所時は不安や疑問も多いと思われるため、利用者様やご家族の立場に立って、ご理解いただける説明を行うよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはご家族に必ず状態報告を行い、それに対するご意見を聞きケアにつなげています。またホームのイベント等についてもご意見を参考にしています。必要時、お電話でも説明や意見を伺う機会として行っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で必要時話し合いやカンファレンスなどを実施し、問題点・改善点等を解決するように努めています。また、年に一度、代表者と面接を行い、業務に対する意向をお互いに確認する場としています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が目標を持ち、達成できるよう、業務において取り組み日々のケアにつなげ、やりがいにつながられるようにしています。また外部研修は業務の一環として参加しています。退職金制度や永年勤続表彰制度をH27年度より実施しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や勉強会については積極的に参加し、早速日々のケアに活用するようにしています。職員の業務経験もそれぞれ違うので、一人一人の職員に合ったトレーニングを行い、それぞれが自信をもって業務に臨めるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での他部署との交流や連携は、以前に比べ確立していますので、引き続き継続させていきます。また町内の他施設とは、勉強会という名目で交流会が定期的になり、情報交換をしながらサービス提供の参考にさせていただいています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問に至るまでや、事前訪問当日、また入居までに、今までの経緯や現状、心配や不安なことを把握し、入居者を理解するように努め、より良いケアが提供できるよう準備しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回申し込み時や事前訪問時に、疑問点や不安、ご希望などがあれば情報収集し、入居までに準備し対応していただけるようにします。契約においても同様に行うようにし、ご家族の気持ちに配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やケアマネージャー、また病院やデイ、ショートステイなどと常に連携をとり、その時にどうしたら一番ベストな方法かを話し合い、サービス決定に協力するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯ものを干したり畳んだり、食事の準備・後片付け、畑の手入れや収穫など、入居者ができることは実施していただいています。また会話等を通じて、職員とコミュニケーションをとり、良好な関係を構築しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が入居者と入居以前からの関係が保てるよう、面会や外出泊はいつでも自由にできるようにしています。またイベントやアクティビティなどにも気軽に参加していただける配慮をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の思い出や昔話に傾聴しています。話の中になじみの人や場所などが出てくることも多いので、外出できる場所であれば外出したり、ご家族の協力を得てなじみの人に会えるように連絡するなど、支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う、合わないが生じてしまうのは仕方がないので、関係性を把握し、適宜席の配置を考慮しています。イベントやアクティビティ、趣味の場においても、並び方や順番等、配慮し対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も他施設に訪問し、ご本人とお会いする機会を持つようにしています。またご家族へも連絡したりするなど、状況を伺うようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の情報などから、入居者の希望や意向を把握し対応しています。また入居してからも、ご本人やご家族から情報収集を継続し、相談しながら個別的なケアを行うようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み時や事前訪問、契約時などに生活歴や今までの経過を伺うようにしています。また不足の情報があればケアマネジャーへ確認し、実際にサービス提供者のところへ伺い話を聞くようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況を記録し、職員一人一人が情報収集し、共有してケアにつなげています。日ごろから医師や看護師、病院との連携を図り、もし体調変化等あれば速やかに対応していただけるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のご本人の訴えやご家族の意見や希望を伺い、職員・ケアマネと検討し、介護計画を作成しています。常に現在の状況を情報として取り入れ、反映させています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態を記録としてカルテに記入し、残すようにしている。状態が変化したりケアの変更がある場合は、カンファレンスを行い、情報を共有しプラン見直しなどに反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じて、外出対応するなど、臨機応変に対応しています。ご家族にも協力をお願いしたり、時には他部署にも連携を図り、対応するなどしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方々や地域の役員、またボランティアの方が気軽にきて下さるよう、信頼関係を築いています。イベントやアクティビティを行ってもらうなど、入居者の方が普段できない活動を楽しんでいただけるよう、願っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度主治医の往診がありますが、それ以外でも静岡県在宅医療ネットワークシステム等を利用し、適宜状態報告を行い、必要であれば受診するなどしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	たんより看護師が日々観察対応しています。また週に一度訪問看護も利用しています。看護相談助言、また看護処置等、入居者の病状の把握や状態変化に対して、連携しながら看護ケアを行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院等になってしまった場合には、入居中の生活状況を速やかに伝達し、入院生活に際し活用を依頼します。面会や面談に積極的に参加し、できるだけ早期に退院できるよう病院の医師・看護師・支援員らと情報交換しながら対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、病状が進行した場合やターミナルの時期になった時のあり方をお話する機会を持つようにしています。また初回往診時に主治医とも確認し、今後の療養上の方針として共有し対応しています。訪問看護とも連携を図っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から、急変時や事故発生時の対応について意識するよう、勉強会や研修を行う機会を持っています。実際に救急対応した場合は、状況を実例として訓練するようにしています。医師や訪問看護師にも常時指導していただき、実践力の向上に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い、職員が避難する方法を身につける機会を持っています。また、地域の役員や近所の方にも依頼し、日頃から実際の災害発生を意識し、協力していただける体制をとっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症があっても入居者の人格を尊重し、人生の先輩として対応するよう、職員一人一人が意識してケアをするようにしています。プライバシーが保てるよう、注意を払い対応することを心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者お一人お一人の思いを尊重し、気持ちを出しやすい状況を作るようにしています。また、職員が決めるのではなく、入居者本人が自己決定できるような生活支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日、また一週間の予定はあるものの、入居者の状態や状況により予定を変更して対応しています。希望があれば、レクリエーションやアクティビティ、外出など、臨機応変に対応できるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に職員が一人一人の好みや趣向を把握し、髪形や化粧、服装など本人の希望に沿って支援しています。年齢や性別に関係なく、おしゃれの気持ちを忘れないように対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや簡単な調理は、やりたい人、意欲のある人をお願いし、職員と一緒にするようにしています。職員だけで進めてしまうのではなく、常に入居者ができるようなことを検討し、提供しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や昔からの嗜好、好き嫌いなども考慮しながら、栄養状態、水分摂取量を把握しています。食欲がない場合は食べたいもの、飲みたいものを提供し、摂取できるようなケアを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行い、1人でできない方には介助しています。義歯がある方が多いので、義歯洗浄剤も使用しています。必要時、歯科受診も検討し対応しています。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居後の排泄パターンや回数を記録し、把握に努めています。できるだけトイレでの排泄ができるよう、訴えを傾聴し、介助しています。訴えがない方でもトイレ誘導を行い、対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	すぐに便秘薬に頼るのではなく、牛乳やヨーグルト、また青汁などを取り入れ、排泄を促すようにしています。歩行訓練や全身体操を行い、便秘のないよう注意しています。訪問看護師の指導も受けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員側の都合で入浴するのではなく、入居者が入りたいタイミングに合わせて入浴できるように努めています。入浴拒否する方もいますが、無理強いすることのないよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者それぞれの生活リズムを把握し、本人のペースで休息や入眠ができるように対応しています。常識にとらわれることなく、その方の休息ができる状況を理解し、受け入れるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤管理指導が導入されたため、薬剤に関しては薬剤師に確認し、指導を受けています。薬の効果や副作用、用法、用量など理解に努め、内服によって体調がどう変化しているか、観察します。内服は確実に飲めるよう、介助しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理が得意な方、草むしりや畑が得意な方、洗濯物を干したり畳んだり、掃除をするなど、入居者の得意な分野で活躍していただけるようにしています。やりがいを感じ、生きている実感を抱けるよう、役割を担っていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出は定期的にレクリエーションとして計画し、実行しています。外出によって季節感が感じられるよう、場所や時間も検討して出かけています。時には家族や地域役員に協力してもらいながら、普段行けないような所へも行けるよう、計画しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者個々で小口現金(お小遣い)を預かっており、一緒に買い物に行ったり、職員が代わりに購入しています。一緒に行ける方は実際に支払いをします。行けない方にもお金を使ったことを説明し、お金について理解していただけるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、本人が希望時に対応します。実際、直接電話で話をさせていただくと、とても喜ばれます。手紙を書かれた時にはすぐに投函のお手伝いをし、対応するよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員目線で環境を整えるのではなく、入居者の目線で居心地の良い環境となるよう、常に意識するようにしています。自宅のような感覚で生活していただけるよう、時には模様替えや配置換えをし、居心地がよいと感じていただけるように努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は入居者同士で過ごす時間が多いのですが、時には居室で独りの時間も持てるように声掛けや誘導をしています。また、ホール、食堂においてもプライバシーが保てる空間ができるよう、椅子の配置やテーブルの置き方を適宜変えて対応しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の自宅から、本人が使い慣れた馴染みのもの、家具や思い出のあるものなどを持参していただき、本人が違和感なく居心地よく生活していただけるよう、配置しています。希望によっては適宜変化させたり本人の好みを尊重するなど、心掛けています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の理解度も差があるため、当たり前の場所なども皆さんが理解していただけるよう、表記をしたり、わかりやすい方言なども取り入れてみたり、工夫して、不安なく安全に生活していただけるよう努めています。		